

3月号

ハニ養だより



青森県立八戸第二養護学校
平成31年2月25日

校長だより



「優しい答え」

校長 上澤 司

いよいよ3月です。学校では今年度の学習のまとめの時期となりました。各教科のおさらいと共に、次の学年への準備をしっかりとしていきます。

小学校の先生の書いた本にこんな話がありました。

算数の割り算の学習で「 $10 \div 4$ はいくつになりますか？例えば、10個のお菓子を4人で分けるとどうなりますか？そうですね、答えは2余り2ですね。」と子どもたちに説明しました。すると、ある子どもが手を挙げてこう言ったそうです。

「先生、違います。余りはありません。」

「どうしてですか。」と先生が尋ねると

「僕の家では、10個のお菓子を、お父さんとお母さんが2個ずつ、僕と妹で3個ずつ分けるので、余りは出ません。」

この答えを聞いた先生は、思わず胸がジーンとしたと言います。算数の答えとしては、「 $10 \div 4 = 2 \dots 2$ 」が正解であって、余りができます。しかし、私たちの生活の中では、この子が答えたように余りがでないこともあるわけです。そして、何よりその先生が感じたのは、その子の家庭の温かさであり、その子の柔軟な考え方だったと思います。

学ぶということは、正しい答えを導き出すことです。でも、正しい答えが一つとは限らないことも、たくさんあります。見方、考え方の違いで、幾通りもの答えがでることもあります。「答えがないのも答えのひとつ」という格言もあります。そして、「人と人との間に必要なのは、正しい答えではなく優しい答えである。」とも言われています。

学ぶことによって、正しい答えがだせると同時に、優しい答えもだせる人間になりたいものです。1年間同じ学級で学習してきたクラスメイト、毎日一緒に暮らしている家族。それらの生活の中では正しい答えも必要だけれど、優しい答えが人と人との関係を柔らかくすることも私たちは知っています。相手を思いやり、気遣う言葉や行動ができるようになってほしいと思います。



